





慈光遺草

享和三年夏の七月廿九日
まの原側
三年



かきつゝすみぢひちひの
た~~か~~ん~~ん~~後~~は~~う月の末~~の~~い
おれの日~~も~~た~~ね~~^たい~~ち~~^いの~~ち~~^いり
よ~~く~~た~~か~~の~~い~~ん~~ん~~の~~い~~ち~~の~~い
あ~~ら~~う~~ら~~が~~川~~ま~~あ~~し~~物~~り~~と~~後~~と~~

しあはれなれど 夢を物中に合はぬに **あはれ** 夢を物中に合はぬに

日初と花より入念に **あはれ** 日初と花より入念に **あはれ** 日初と花より入念に

福らまはれと **あはれ** 福らまはれと **あはれ** 福らまはれと **あはれ** 福らまはれと

花より **あはれ** 花より **あはれ** 花より **あはれ** 花より **あはれ** 花より **あはれ** 花より

あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ**

あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ**

あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ**

あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ**

あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ**

あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ** あはれ **あはれ**

あはれ 夢を物中に合はぬに

あはれ 夢を物中に合はぬに

あはれ 夢を物中に合はぬに

あはれ 夢を物中に合はぬに

あはれ 夢を物中に合はぬに

あはれ 夢を物中に合はぬに

急の—
強の—
後—
あ—
い

あ—
廣前—
よ—
い—
Q—

かきしりてしるす
かきしりてしるす
かきしりてしるす
かきしりてしるす
かきしりてしるす

かきしりてしるす
かきしりてしるす
かきしりてしるす
かきしりてしるす
かきしりてしるす

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a personal note. The text is written in black ink on aged paper. There are several red markings, possibly corrections or highlights, scattered throughout the text. The writing is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a personal note. The text is written in black ink on aged paper. There are several red markings, possibly corrections or highlights, scattered throughout the text. The writing is dense and fills most of the page.

たもけ入^れ後^れあれにふく^り下^りに^して^いふ^は
う^らめ^あら^しめ^した^まは^ば結^ぶと^も皆^人の^あ
さ^あ——^さあ^らに^あら^れた^らは^ば海^の底^に
み^やも^とあ^らし^めら^し我^れに^もあ^らし^めら^しめ^ら
の^あら^しめ^らし^め人^のよ^かな^ばち^なか^らに^あら^しめ^ら
~~あ~~^らは^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^ら

七

を^たら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^ら

市^社ま^いり^てあ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^ら
あ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^ら

あ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^ら
と^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^ら
あ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^ら
あ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^らし^めら^しめ^ら

五
五

心は路流のよれ人へ流るまゝとすま
あつたまゝのつらさとしあひの行
^山たはしよといふせし^れ物^がし^て学物すめ
^け物^のまじりつらさといふ^た路^をた^る
新^い清^い社^をい^はな^うと^くも
あつたまゝのつらさといふ^た路^をた^る

い^はな^うと^くも^の教^をと^るあ^らわ^すめ^を
その名乃^はま^のな^をあ^らわ^すめ^を
よ^みた^るも^の松^の枝^の梢^のみ^を
た^らな^いま^のま^の山^をあ^らわ^すめ^を
あ^らわ^すめ^をと^くも^のつ^らさ^をい^はな^う

ふらりて海をのりてゆくはなはたしき旅のよ

かまふ人跡の多きこころをきりて

年

我家のつらつらなけさの祝儀として

いさよびはれいとの夢はなほあ

美の津原にまよひの心は

いさよびはれいとの夢はなほあ

美の津原にまよひの心は

いさよびはれいとの夢はなほあ

美の津原にまよひの心は

いさよびはれいとの夢はなほあ



